

3. まとめ

市民満足度は高く、高評価を維持

- ・第 2 次能美市総合計画では新たに 42 の施策が打ち出され、本調査では施策ごとに重要度と満足度を評価してもらいました。満足度については、施策全体の総合評価が 0.36 と、前回調査（H27）の 0.38 とほぼ変わらず、高評価を維持できていることがわかります。その中で満足度がマイナスとなった項目は、「若者のライフデザインの支援」、「観光と交流の推進」、「商業の振興」の 3 つのみでした。今後はこれらの項目の評価をプラスにする必要があります。

子育て支援施策への期待が高い

- ・42 の施策ごとに重要度と満足度を評価してもらった中で最も重要度が高かった施策は、「少子化対策・子育て支援の充実」でした。一方で、満足度も 12 番目と比較的高くなっており、現状よりも強化していくことが求められています。
- ・問 18 の地域が主体となって取り組むべき課題に関する設問を年代別に見ると、30 歳代の子育ての支援への評価点が最も高くなっており、地域ぐるみでの子育て支援が求められています。

9 割の市民（回答者）が能美市の住みやすさを実感

- ・問 12 では、能美市を「住みやすい」あるいは「どちらかといえば住みやすい」と回答した人の合計が 91%と、多くの市民（回答者）が住みやすいと評価しています。
- ・問 15 の定住意向に関する設問では、「このまま住み続けたい」と「一時的に離れることはあっても、今の地域で住み続けたい」の合計が 83%となっており、その理由として生活のしやすさや、自然に恵まれている点が多く挙げられました。
- ・問 14 では、自分の子どもや親戚に能美市に住み続けるよう働きかけているかについて、特に何もしていない人が 73%と多くなっており、特に働きかけがなくても能美市に住み続けたいと感じている人が多いことがわかります。

地域活動等への参加には消極的

- ・ 問 16 の地域活動への参加状況については「特になし（参加していない）」が半数を占め、年代別に見ると 20 歳代は 81% と特に多くなっています。問 17 では参加してみたい地域活動を聞いていますが、「特になし」が 69% と現状よりもさらに多くなっています。
- ・ 問 20 の地域活動における活動の妨げになっていることについては、「参加者不足」や「地域の理解・盛り上がり」が多くなっており、地域活動へはやや消極的であることがわかります。
- ・ 一方で、問 19 では、問題解決に向けて「地域の人々（市民や行政）が気楽に集まれる場所をつくる」が重要であるとの回答が多くなっており、地域住民や行政との交流を通して、地域活動を活発にしていくことが考えられます。

公共交通の充実が必要

- ・ 問 15 の定住意向に関する設問では、住み続けたいとの回答が 83% と高い一方で、「他の市町村に移り住みたい」も 8% あり、理由として公共交通が充実していないことや、買い物が不便であることが挙げられています。

幸福度・健康度に対するフォローアップの実施

- ・ 問 21、問 22 を点数化した結果、マイナスになっている項目はありませんでした。今回の点数を基準に、今後も継続して市民の幸福度・健康度を測っていくことが考えられます。